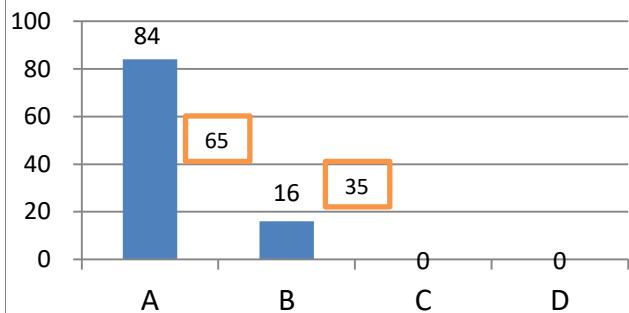


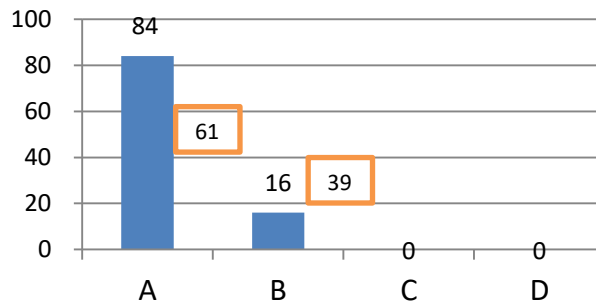
令和2年度 教師の評価集計(前期)

□ は前年度前期の%を示す

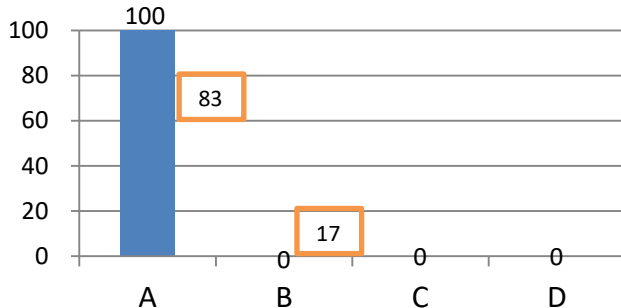
1 校学校教育目標・目指す児童像・校訓を意識して、教育活動を進めている。



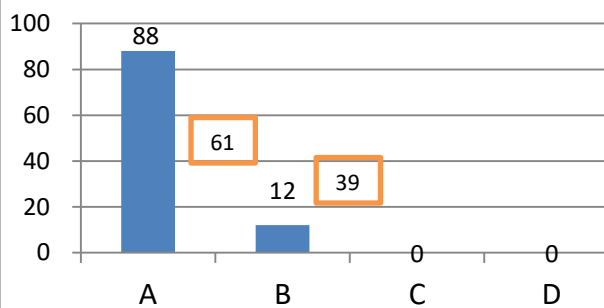
2 マネジメントサイクル(PDCA)で、よりよいものに改善を図ろうとしている。



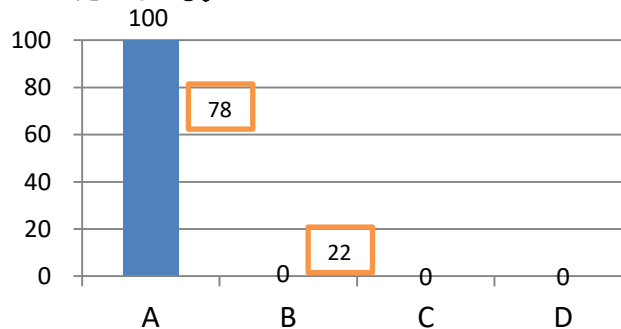
3 他の教職員と連絡調整・コミュニケーションを図りながら(組織的・協働的に)教育活動にあたっている。



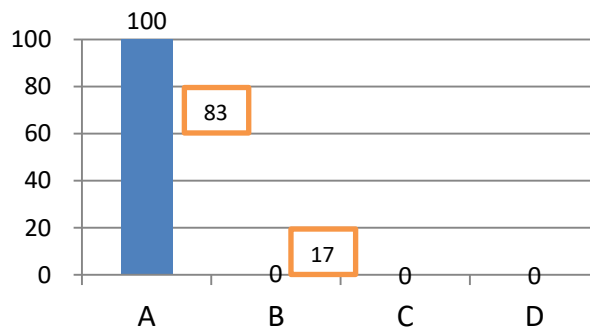
4 学校評価・一校一実践一人一実践・人事評価制度・校内研・各種研修を通し、自分を磨き専門性を高めようとしている。



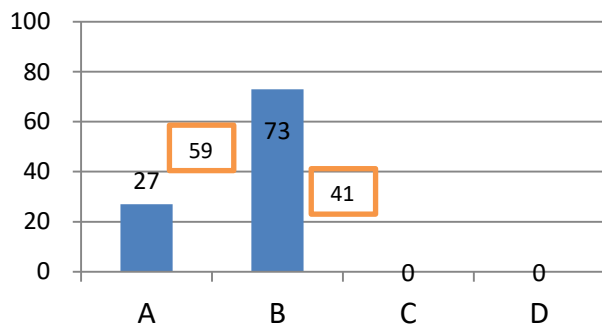
5 危機管理(事故・加害行為・災害・個人情報・網紀保持等)を意識し、教育活動等にあたっている。



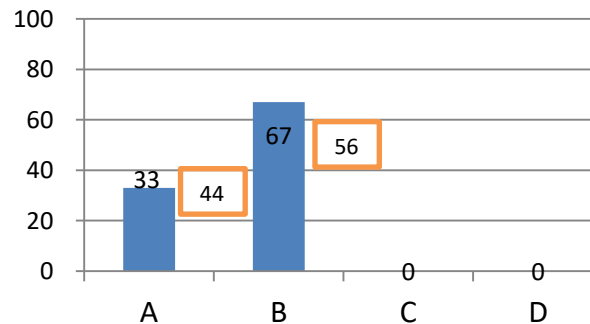
6 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を目指した指導に努めている。



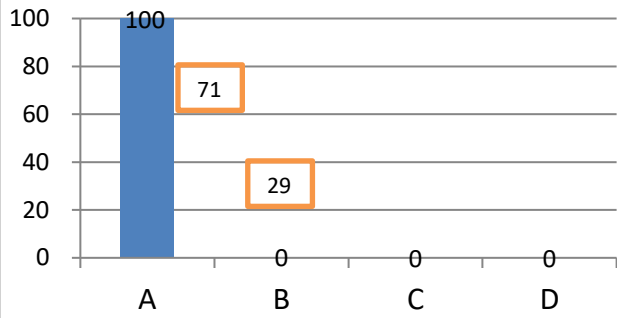
7 「関わりあい高めあう」授業(校内研テーマ)を通して、思考力・判断力・表現力及び主体的な学習態度の育成に努めている。



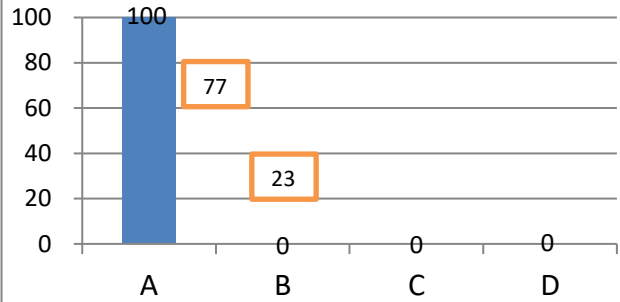
8 学校が「きっかけ」をつくり、保護者とも連携し、児童の学習習慣が確立するよう努めている。



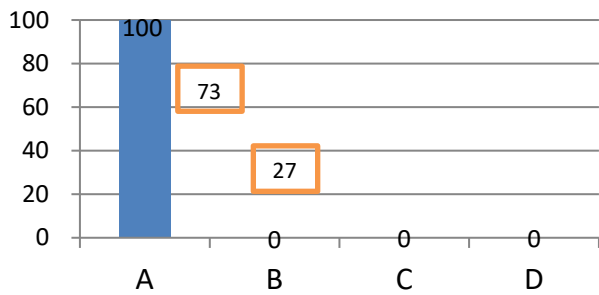
9 児童理解に基づき、ルールとリレーションのある学級・学校づくりに努めている。



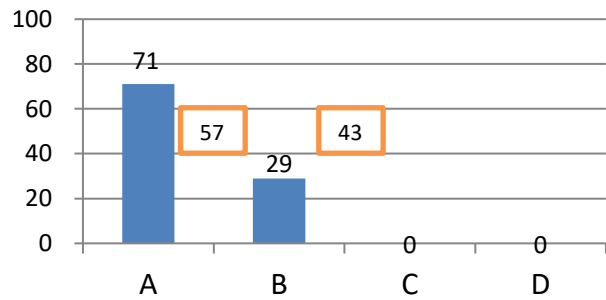
10 いじめ・不登校・問題行動の未然防止に努めるとともに、万が一の場合は、見逃さず対処している。



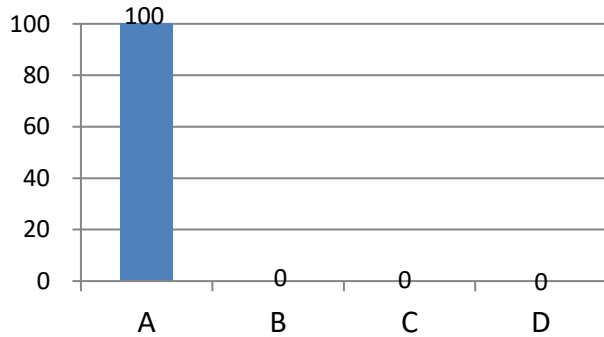
11 児童理解・生徒指導・特別支援の観点に立ち、児童特性に応じた(組織的な)指導に努めている。



12 保護者・地域(及び関係機関)との連携・協力を努めている。

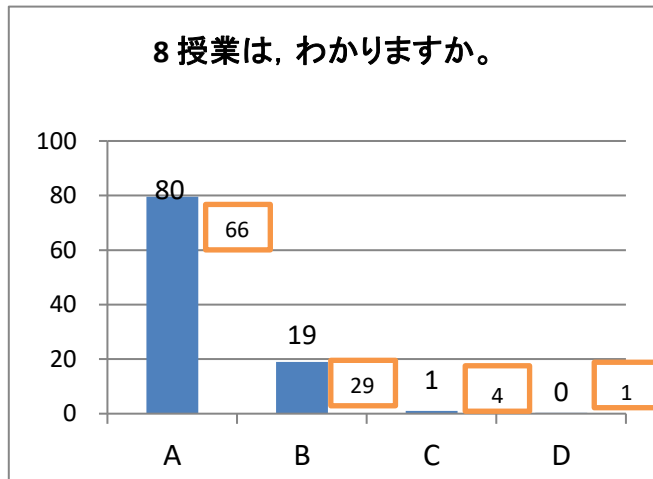
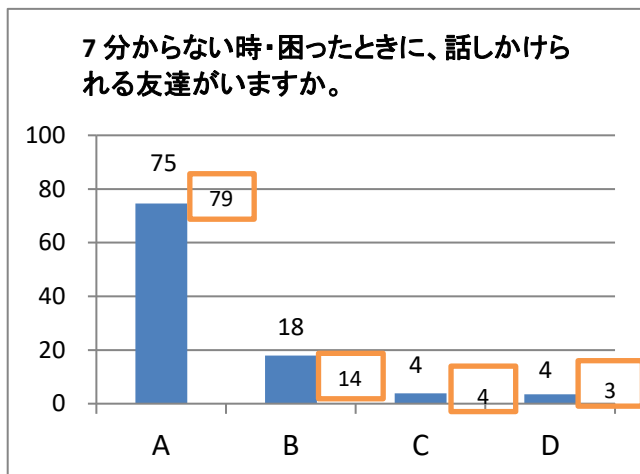
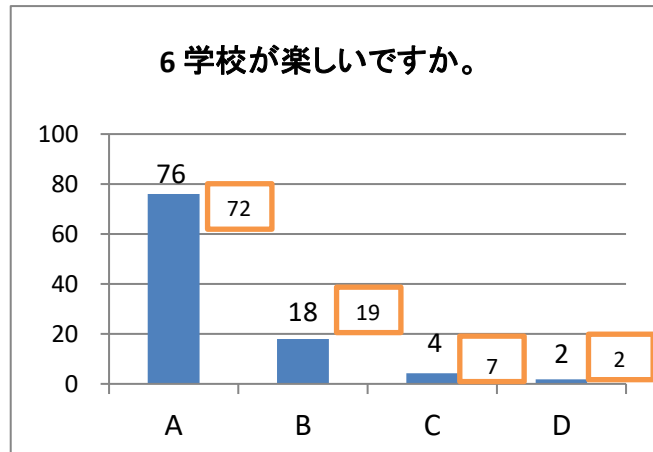
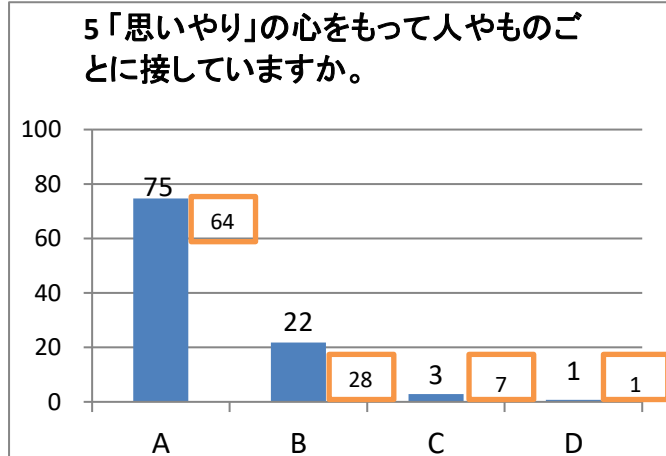
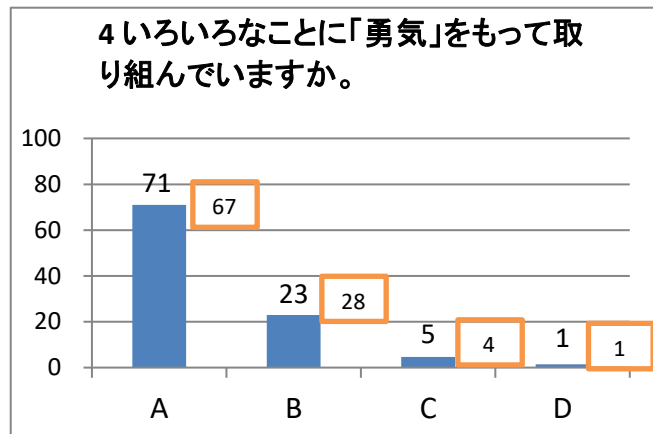
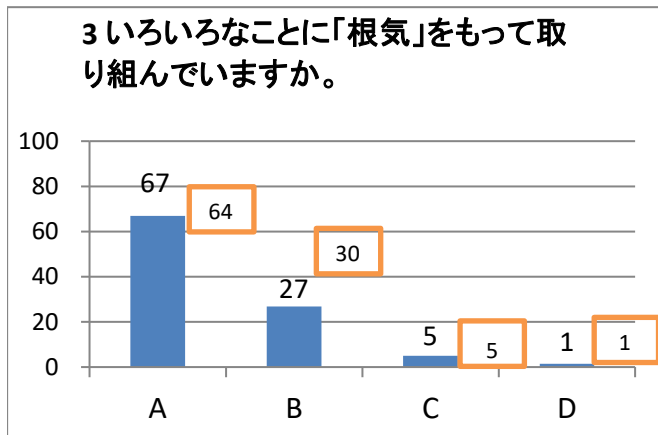
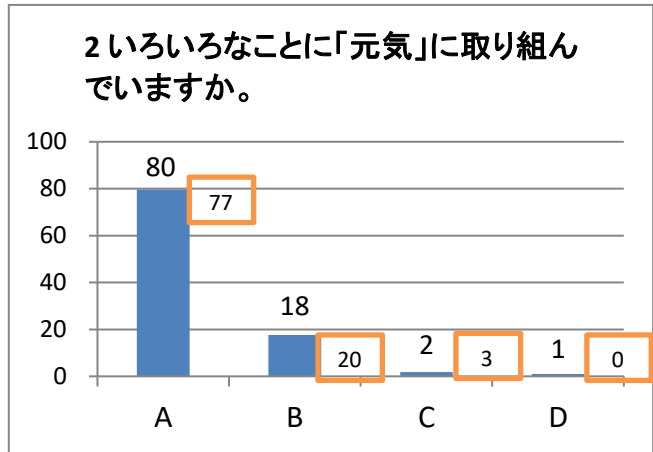
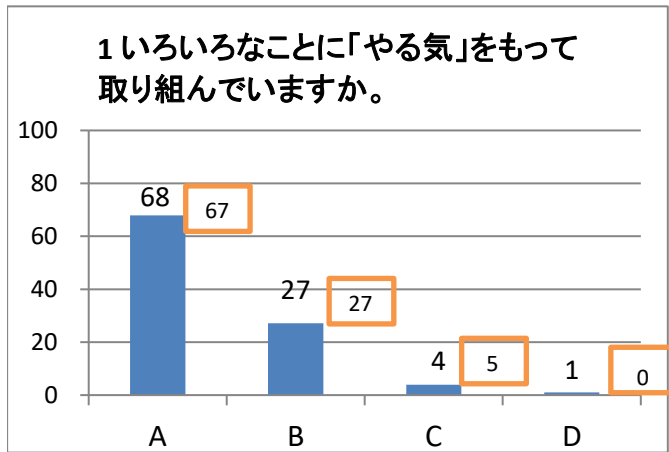


13 白根東小はいい学校だと思いますか。

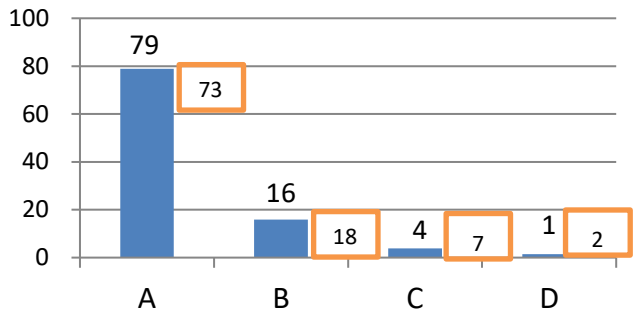


令和2年度 児童アンケート集計(前期)

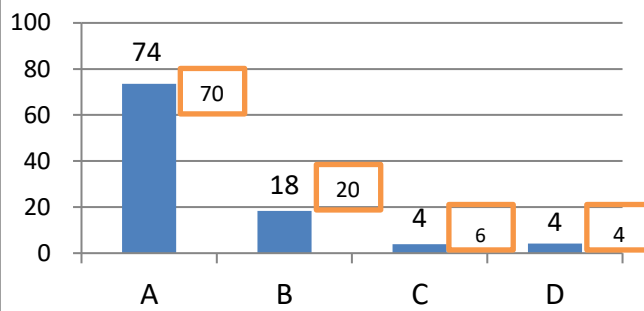
□ は前年度前期の%を示す



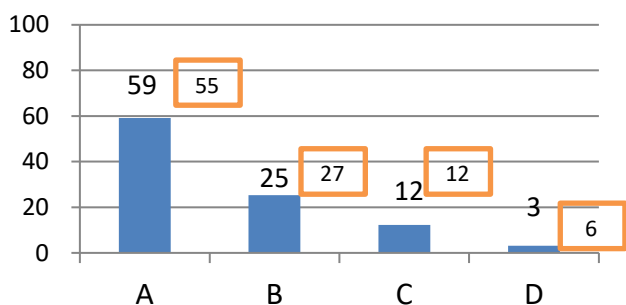
9分からない時・困ったときに、話かけられる先生がいますか。



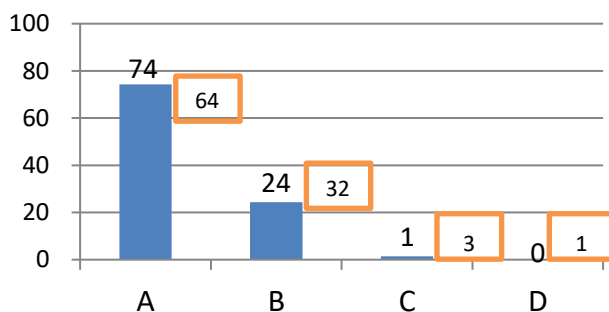
10 授業(勉強)でわからない時には、先生に聞いていますか。



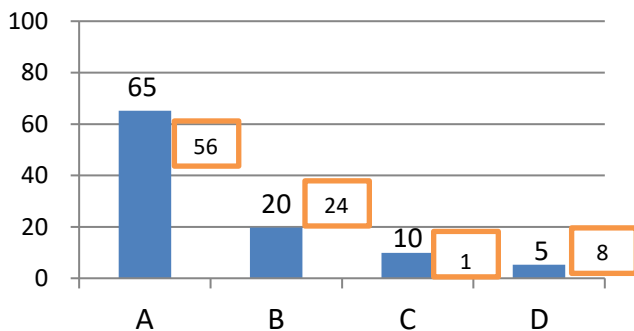
11 授業中に、手をあげたり自分の考えを言ったりしていますか。



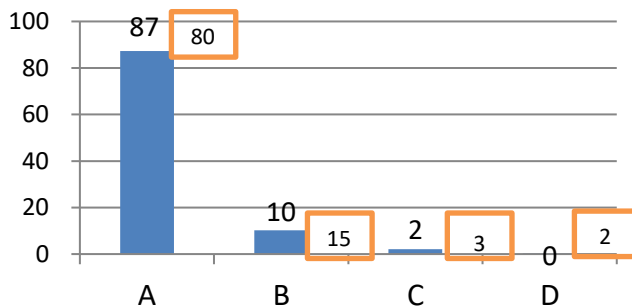
12 学校のきまりや約束事を守っていますか。



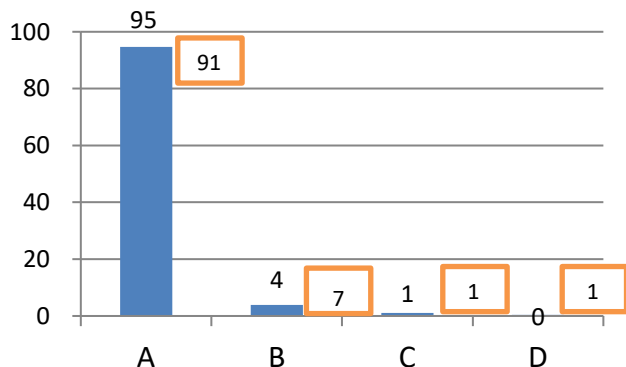
13 学校での様子を、家の人に話していますか。



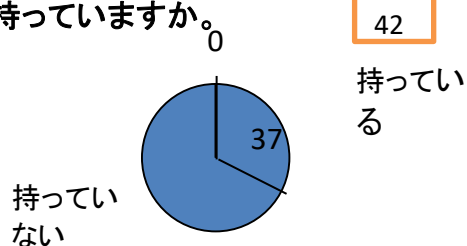
14 家の人に、学校からのたよりなどを渡していますか。



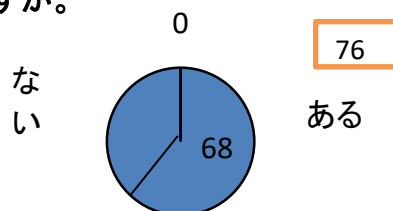
15 朝ごはんを食べて登校していますか。



16 自分のケータイまたはスマホを持っていますか。



17 持っている人だけ→ケータイまたはスマホを使う時の家のルールはありますか。



学校で一番楽しみなこと（前期児童アンケートから）

*数字は回答人数（複数回答者あり）

【1年生】

- ・図工 11
- ・休み時間 8
- ・体育 5
- ・生活 4
- ・プール 4
- ・音楽 3
- ・国語 3
- ・給食 2
- ・理科 2
- ・友達と遊ぶこと 1
- ・友達とおしゃべりすること 1
- ・運動会 1
- ・掃除 1
- ・集団下校 1
- ・ブランコ 1

【2年生】

- ・図工 15
- ・休み時間 9
- ・体育 8
- ・算数 7
- ・勉強 4
- ・国語 4
- ・音楽 3
- ・友達と話す 3
- ・学活 2
- ・友達と遊具で遊ぶ 2
- ・音読 2
- ・図書室で読み聞かせ 1
- ・縄跳びをすること 1
- ・粘土 1
- ・図書 1
- ・歌を歌うこと 1
- ・友達をつくること 1
- ・実験 1
- ・生活 1
- ・プール 1
- ・夏休み 1

【3年生】

- ・お誕生日会 16
- ・休み時間 9
- ・図工 7
- ・勉強 7
- ・体育 6
- ・友達と遊ぶこと 3
- ・算数 3
- ・社会科見学 2
- ・英語 2
- ・国語 1
- ・音楽 1
- ・友達と会うこと 1
- ・給食 1
- ・なわとび 1
- ・あいさつ 1
- ・日直 1

【4年生】

- ・休み時間 14
- ・友達と遊ぶこと 12
- ・図工 10
- ・勉強 7
- ・友達と会えること 6
- ・友達と話すこと 4
- ・給食 4
- ・体育 3
- ・絵を描くこと 3
- ・本を読むこと 2
- ・理科 2
- ・算数 2
- ・社会科見学 2
- ・図書室で本を借りる 1
- ・先生と話す 1

【5年生】

- ・友達と遊ぶこと 9
- ・友達と話すこと 8
- ・休み時間 8
- ・体育 8
- ・家庭科 5
- ・授業 4
- ・理科 3
- ・算数 3
- ・読書 3
- ・委員会 1
- ・クラブ 1
- ・音楽会 1
- ・運動 1
- ・運動会 1
- ・児童集会 1
- ・林間学校 1

【6年生】

- ・友達と話す 11
- ・休み時間 11
- ・給食 7
- ・友達と遊ぶこと 6
- ・体育 5
- ・修学旅行 5
- ・友達や先生に会うこと 4
- ・読書 4
- ・社会科見学 3
- ・帰り 2
- ・運動会 2
- ・勉強 1
- ・図工 1
- ・理科 1
- ・児童会の仕事をするとき 1
- ・英語 1

前期学校関係者評価書

文責 教頭 清水 ゆみ

第1回学校関係者評価委員会

実施日 令和2年8月26日(水)

会場 校長室

参加者 戸栗 淳 (評議員) 手塚 正彦 (評議員) 山本由美子 (評議員)
望月 君江 (評議員) 正木 梢 (評議員) 金丸 賢二 (PTA会長)
笹本 忠彦 (校長) 清水 ゆみ (教頭) 中島 則雄 (教務主任)

I 学校から提案する内容

- 自己評価結果
- 児童アンケート結果
- 学校評価考察

II 協議される主な内容

学校評価考察をもとに、学校の現状(成果と課題)や取組等について情報を共有・協議し、学校・家庭・地域の連携協力により学校運営の改善を目指す。

<学校評価考察>

はじめに

本校では、これまで長年にわたり【やる気・元気・根気・勇気・思いやり】の「五本の木」が校訓として受け継がれてきている。この校訓を受けて、「学びを深め、豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成」を令和2年度の学校教育目標に掲げ、学校長をリーダーに全職員が一丸となって児童の育成に携わっている。また、白根東小学校の目指す児童像は、「情報や考えなどを的確に理解し、判断の根拠や理由を明確に示しながら、自分の考えを述べることができる児童」である。この目標を実現するために、教職員一人ひとりが日々の教育活動に取り組んでいる。しかし、それぞれの教職員がいくら一生懸命にがんばったとしても、目標に向かうベクトルの向きがバラバラでは「学校」として大きな成果は望めない。それはまた、保護者や地域との関係においても同じことが言える。各自の個性やアプローチの仕方は尊重しつつ、チームとして目指す同じゴールに向かっていきたいと考えている。学校評価はそれを検証する貴重な機会であるにとらえ、そこから見えてくる・見つけられる事実としっかり向き合っていく必要がある。

「A」(あてはまる)「B」(どちらかというにあてはまる)を肯定的意見、「C」(どちらかというにあてはまらない)「D」(あてはまらない)を否定的意見にとらえると、自己評価(教職員)はすべての項目について肯定的評価が100%に達している。また、児童アンケートもすべての項目で80%を超えており、全体的にみておおむね満足できる状態であるといえる。ただ、そこから見えてくる課題を見つけ、取組を進めていくことがさらなる高みを目指すためには大変重要なことである。

<自己評価における課題>

① No.7 「「関わり合い・高め合う」授業（校内研テーマ）を通して、思考力・判断力・表現力及び主体的な学習態度の育成に努めている」において、A 評価が27%・B 評価が73%という結果になっている。今年度は、新型コロナウイルス感染症による臨時休業が5月22日まで延期された。5月25日ようやく学校再開となったものの、感染症拡大防止対策として3密回避（密集・密接・密閉）のために、今までの学習形態をとることが困難となった。ソーシャルディスタンスをとっての机の配置やマスクの着用、また、グループ学習やペアトーク等の実施不可という状況から、児童相互の関わり合いが必然的に実践できない状況下であったことが背景にある。しかし、今後もこのような感染症拡大防止対策を受け入れながら、目指す児童像を念頭に置いて、思考力・判断力・表現力及び主体的な学習態度の育成に努めなければならない。新しい生活様式を踏まえ、学校全体で学習形態の方法や工夫を考えていくことも新たな課題である。

② No.8 「学校がきっかけをつくり、保護者とも連携し、児童の学習習慣が確立するよう努めている」において、A 評価が33%・B 評価が67%となっていて昨年同様課題と捉えている。No.6 「基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を目指した指導に努めている」（A 評価100%）に表れているように、基礎基本の指導を徹底したり宿題や自主勉強などに取り組んだりして、手ごたえは十分感じているようである。しかし、「学習の習慣化」や「連携」となると、個人差もあるためまだまだハードルは高いようである。家庭学習の一層の定着を図るためには、各家庭の協力を得ながら全教職員が継続的に取り組み、「きっかけ」づくりを意識していくことが大切だと考える。例えば、家庭学習の内容や取り組み方を提示するとともに、家庭学習強化週間の設定や家庭での学習環境づくりについて提示するなどの方法を考えて検討していきたい。また、No.7の主体的な学習態度の育成とも関係してくるが、一人ひとりの教師が授業力をさらに高め、子供たちが「わかった」「楽しい」と感じられる授業を増やしていくことが、主体的な学習や学習の習慣化にも繋がるのではないかと考える。

③ No.12 「保護者・地域との連携・協力を努めている」のB 評価が29%と高く、教職員がどのように連携をはかればよいのか悩んでいることがうかがえる。「連携」というと相互に協力し補完し合うというイメージがあり、そこまでは到達できていないと考えているようである。昨今「開かれた学校」ということがクローズアップされ、保護者や地域の方々との連携を深めていくことは大変重要なことであるが、それぞれの立場や持ち場に応じた連携を模索する必要がある。担任は保護者や授業や活動に関わる地域の方との連携を進めていくことが大事である。管理職や教務を中心に行われている「安心安全」に係る連携は更に強化し他の分野に関しても連携を模索し、学校全体に広げていきたいと考えている。「地域と共に育つ子供」【共育】を合言葉に連携を強化していきたい。

<児童アンケートにおける課題>

- ① 校訓である「やる気」「元気」「根気」「勇気」「思いやり」については、子供たちが評価するに当たり具体的にイメージしにくいところもあるが、A評価の高い順に「元気」(80%)「思いやり」(75%)「勇気」(71%)「やる気」(68%)「根気」(67%)となっている。例年傾向は同じであるがやはり「元気」が一番イメージしやすいようである。「この場面では〇〇が必要だね。」「〇〇が身についてきたね。」など、具体的に子供たちの学習や活動場面において「五本の木」を意識した評価をしていくことで、「五本の木」をイメージしやすくなるのではないだろうか。令和2年度前期アンケートでは、やる気・根気が60パーセント台という結果である。長期にわたる学校の臨時休業の弊害なのかは判断できないが、やる気をもって根気強く取り組むことができるように、教職員や保護者や友達同士の評価を通し、自己肯定感・自己有用感を高めていくことも大切なことであると考えます。

- ② No.6「学校が楽しいですか」のCとD評価の合計が6%となっている。94%の児童が肯定的であるが、全校児童が白根東小学校に行きたくなるような学校づくりを考えていかなければならない。今年度の学校経営の根底にある「学級づくり」の充実が、児童の学校生活に影響している。児童一人ひとりに自分の居場所がある安心して生活できる学級づくりと、「できた」「分かった」を実感できる授業づくりと両輪にして、充実した学校生活を送れるようにしていきたい。

- ③ No.11「授業中に、手をあげたり自分の考えを言ったりしていますか」のA評価は59%で、全項目の中で最も数値が低い。本校の目指す児童像が「情報や考えなどを的確に理解し、判断の根拠や理由を明確に示しながら、自分の考えを述べることができる児童」であるが、全体の場での発言に抵抗を感じている児童も15%いる。友達の考えを受け入れる姿勢や考えを伝えあえる学級づくりをしていくことが課題である。自己評価のNo.7の「関わり合い・高め合う授業」につなげていけるように取り組んでいきたい。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のために、発言の機会が制限されていたことも考慮しなければならない。

- ④ No.13「学校での様子を、家の人に話していますか」のA評価は65%でここ数年同じような割合であり、保護者との情報共有という点から気になるところである。No.14「家の人に、学校からの便りなどを渡していますか」のA評価は87%で、ある程度の情報の共有は行われていると思われるが、家庭内で学校のことを話す機会を意図的に確保したい。自己評価No.8「学校がきっかけをつくり、保護者とも連携し、児童の学習習慣が確立するよう努めている」の関連からも意図的に「きっかけ」づくりを試みていく必要があると感じている。家庭学習の中に「親子の会話」のきっかけづくりを学校が積極的に仕組んでいく必要がある。情報不足による「知らない」ということから様々な不安や心配事が発生しがちである。保護者や地域との連携に心して取り組んでいきたい。

Ⅲ 出された意見と改善策

- 今年度の学校評価のアンケートで、昨年度と比較し数値の変動が大きかった項目について提示した。自己評価項目においては、No.7「「関わり合い・高め合う」授業（校内研テーマ）を通して、思考力・判断力・表現力及び主体的な学習態度の育成に努めている」、No.8「学校がきっかけをつくり、保護者とも連携し、児童の学習習慣が確立するよう努めている」、No.12「保護者・地域との連携・協力を努めている」の3項目と、児童アンケートのNO.6「学校が楽しいですか」、No.11「授業中に、手をあげたり自分の考えを言ったりしていますか」、No.13「学校での様子を、家の人に話していますか」の3項目を採り上げ話し合いを進めた。
- 自己評価の No.7と児童アンケートの No.11については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている。長期間学校が休業となったこと、感染症対策としての新しい生活様式を取り入れての学校再開となったことで、必然的に今までの状況と違った学習環境や学習形態を取り入れなければならなかった。しかし、全職員共通理解の下で対策を講じながら、児童が主体的に授業に参加できるように工夫を重ねてきている。後期に向けて、「関わり合い・高め合う授業づくり」について、校内研究とも関連させて取組を強化していきたい。
- 自己評価の No.8と No.13については、学級・学年便りやホームページを使って学校の様子について保護者へ発信してきた。また、学校長が発行している学校だよりを地域の自治会で回覧してもらっている。今後も学校の様子を家庭や地域に発信しながら連携を図っていきたい。
- 児童アンケートの NO.6「学校が楽しいですか」については、人数では、全校で17名の児童が否定的な答えとなっている。そう感じている要因が何かについては、各担任に話を聞いてもらう必要がある。また、職員の自己評価アンケートではいじめについて項目が挙げられているが、児童アンケートに同様の項目がないのは、何故かという質問が出された。これは、同時期に生徒指導から「いじめに関するアンケート」が出されるため、学校評価アンケートでは項目に挙げられていないと説明した。また「いじめに関するアンケート」についての結果も評価委員会で報告した。さらに、欠席の多い児童についての質問が出され現状を説明した。「学校に行くことが楽しい」と児童全員が思えるような学級・学年・学校づくりを進めていきたい。

Ⅳ まとめ

今後も感染症防止対策が継続される中、保護者や地域の理解と協力を得て、児童が安心・安全に学校生活を送れるように環境の整備を進めるとともに、学校長をリーダーに「チーム東小」として日々の教育活動を進めていく。「東小の子どもたちのため」という思いは、学校も保護者も地域も全く同じである。自己評価も児童アンケートもおおむね満足できる状態ではあるが、「地域の強い思い」「地域の教育力」を大事にし、お互いにコミュニケーションを図りながら連携を図っていくことで本校の学校教育目標の実現につながっていくと確信している。「児童が通いたくなる白根東小」、「保護者が通わせたいくなる白根東小」、そして、「教職員が勤務したくなる白根東小」となるように、学校・保護者・地域のベクトルの向きを同じくして取り組んでいくことが、一番大事なことである。